## 千葉県による落花生栽培の奨励

"落花生といえば千葉県" といわれるほど、県の代表的な特産物である落花生を千葉県で栽培し始めたのは、今から約150年前の明治時代です。

当時の政府は国内産業を近代化するために殖産興業を推進し、なかでも輸出の盛んな養養や製茶など、農業の奨励に重点を置いた勧農政策を進めていました。

千葉県が進めた勧農政策で、奨励を行った作物の一つが落花生です。明治10(1877)年に県は落花生の試験栽培を行い、翌11年4月に当時の県令だった柴原 和が政府から7行2斗(1,296 次)の種子を得て、県内の区長・戸長あてに落花生栽培を奨励する輸達を出しました。

その輸達には、西洋人の好む鰯の油漬け(オイルサーディン)に落花生から抽出した油が適していること、県内で豊富に獲れる鰯を油漬けにして輸出することで落花生の需要を増やし収益を上げようという、県の落花生栽培奨励の目的が記されています。

欧米へ向けた新たな輸出物の生産のために県が栽培の奨励を行い、千葉県の落花生栽培が始まっていくことになりました。

県令…現在の県知事。明治19年に知事に改称された。

輸達…役所から人々に告知して理解してもらうこと。





「千葉県歴史 政治之部 勧農(明治6~18年)」 (国立公文書館所蔵)

## 量 モ 致 的 利 開 鰮 有 ノ 開 生 物 落

へ取候アヲキ魚益油墾立ョ花

割可、モ見へ獲輸ニ畑殆熟ノ

増申望ノ候ハノ出適等ン成効

ヲ出ノニ、需地物シヘトノ用

十種ハ種落テテ可洋大ヲル別

一子本子花広右相人試以長紙

月返月ヲ生ク油成ノ作テシ解

限納十購八、漬趣灣致二ト説

リノ五求管全ヲ、好シ納雖書

可儀日有下ク以当ス度ノトノ

相ハニ志二従テ県ル候収モ通

旨ノ其へ最無一キシニ有悪テ

諭上人貸モ|之大沿テ|該|之ノ `

達貸名渡有余生海 油モ地他

候渡及培益分産ノ往ハノニノ

事シ数養ノノヲ漁々鰮ニモ畑

場一魚付能作

ク

種

本量為目収

1

、ノ、テ従於活 西成作 頗シレ

ハー期タ

二調條ル可候多ノ漬新

以候モ付依要ニト

○意 六訳 文落 書花 に生 つ栽 い培 △種 要の 旨貸 渡 U 方 が 通 知 さ

れ

た

調貸益らけ鰯有抽開1り落 べしなればが益出墾回収花 て渡目る、沢なす新の穫生 報す的だ落山輸る畑作まの 告のをる花獲出油で付で効 せで持う生れ物はなけの用 よ、つ。のると るで期別 こ希もよ需とな西べ、間紙 望のつ要こる洋者とてはろ。大 く他は解 試の長説 が 作作が書 はな落増で千今る花え、葉 好 今る花え 葉 鰯県鰯しの のののたる無り でる下でけに伊特収並り にもににの沿にに益で、 氏のお無一海適、がも他 名はいい大のし落あょの `て|収生漁で|花|る<畑 量種最益産場お生の育作 数子もををなりかでつ物 をを有得開ど、らい、。よ

### 六翻 日刻

0-落 花 生 培 養 種 子 貸 ヲ 其 文 = 日

ク

納収限ノ於前別ノ所、利、リ戸区 此納り者テニニ如ニ殊モ粗ニ長長ス

## 牧野萬右衛門

#### ~千葉県初の落花生栽培~

弘化4(1847)年~大正1O(1921)年



牧野萬右衛門 肖像 (提供 山武市歴史民俗資料館

山武郡南郷村草深(現:山武市)出身の牧野は、明治9(1876)年、国内外の商況を視察するために横浜へ赴き、清国の商人から同国の落花生の需要が多いこと、落花生が牧野の地元の風土に適していることを知り、落花生栽培の導入を思い立ちます。横

浜の清国商館の羅謙帝氏からは落花生の種子を入手できず、清国商館から神奈川県三浦郡中里村(現:逗子市)へ売られていたことを知ります。横浜から船で中里村へ向かい、2日がかりでようやく栽培者から2升5合(4.5%)の種子を買い取ることができました。

地元へ戻ると手に入れた種子を有志者に配り、落花生 栽培の普及をめざしますが、当時はまだ落花生の価値を 知る人は少なく、すぐには受け入れてもらえませんでし た。そこで、牧野自ら栽培を試みると、とても良い収穫 を得ることができました。この牧野による落花生の栽培 は、千葉県が栽培を奨励する以前に行われ、県内で最初 の落花生栽培となりました。

栽培が軌道に乗ると、牧野は落花生の販路を広げるため、明治22(1889)年に「千葉県落花生商業組合」を設立します。横浜の清国商館と交渉を重ね、設立の翌年には10貫首(37.5 \*。)入りの落花生20俵を売り込むことに成功します。これが千葉県下の落花生輸出の始まりでした。その後は中国・アメリカ・イギリス他、広く海外に輸出され好評価を受けると、県内の生産量も次第に増えていきました。

# 

#### ~落花生栽培の普及に尽力~



金谷総蔵 肖像写真金谷恒雄氏所蔵提供 旭市教育委員会

恒瑳都鎌数村(現:旭市)の戸長だった金谷は、明治 11(1878)年、千葉県の落花生栽培奨励に応じ、2升(3.6 次)の種子の貸し渡しを受け、まず、自身の畑で試作を行いました。翌年には、15石(2,700 も)の収穫を得ることができ、落花生が地元に適した作物であることを

します。そこで、近隣の人々にも栽培を勧めますが、作 物としての落花生の価値が理解されておらず、また食物とし ての好みにも合わなかったことから、進んで栽培をする人は いませんでした。しかし、落花生が地元に大きな利益をもた らすと確信する金谷は、種子と肥料(干鰯)を無利子で貸付け、 収穫された物は相当の値段で買い取ることを約束する 「落花生蒔附連名簿」を作り、近隣の村々をまわって人々を 説得しました。また、販路確保のため販売契約の交渉をする など、落花生栽培の普及に尽力しました。 翌明治13(1880) 年に、収穫できた落花生を東京で売ったところ、1石(180 ㌔) を4~5円で売ることができました。これは、他の雑穀など の数倍となる値段でした。落花生が利益につながることが広 まると、近隣の村々も競って栽培を始め、明治16年(1883) 年には、県内で生産された落花生の販売総額が、1万5千円 を超えるほどにまでなり、千葉県の落花生栽培は急成長して いきました。

## 八街の落花生栽培

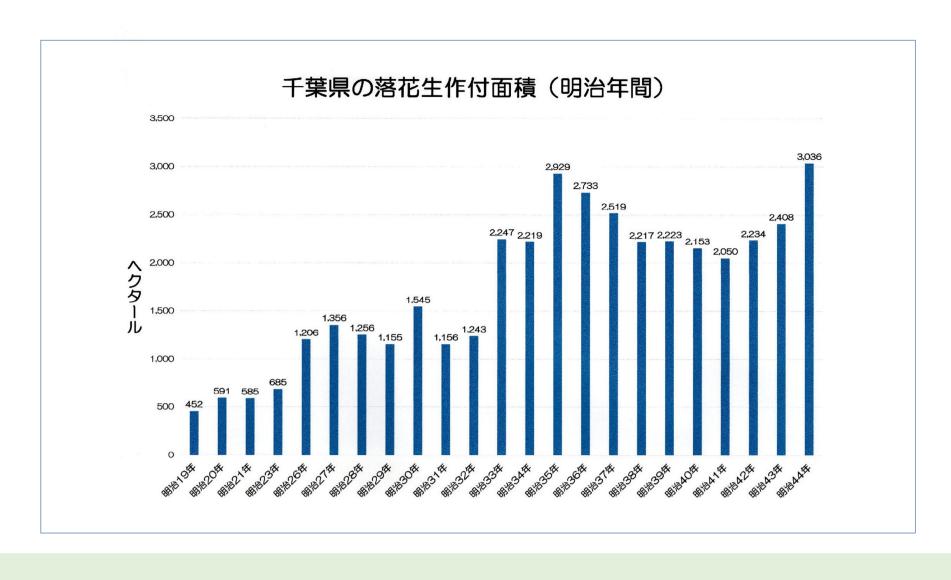
千葉県内で落花生栽培が広がっていくなか、八街では明治29(1896)年頃、現在の文遣区や住野区で、栽培が始められたといわれています。

郷土資料館が所蔵する、八街の落花生栽培について確認できる最も古い史料は、明治34(1901)年に文違区で作成された古文書です。その史料は、落花生を栽培するための金銭を借用するにあたって書かれた契約書で、

- 借りたお金で栽培した落花生が、収穫できたときには、お金を貸してくれた貴殿(貸主)に、その落花生を売り渡します。
- 他の人に売ってしまったときには、借りたお金の倍の金額をお返しします。

などの、契約内容が記されています。

この頃の県内の落花生の作付面積は、2,200 36を超え、明治20(1887)年の約600 34に対して、おおよそ4倍ほどに増えており、県の特産物として急成長したことがわかります。「他人に売り渡したら倍額で返金する」という契約は厳しいものですが、当時すでに落花生は需要も高く、大きな利益を生む重要な農産物となっていたと考えられます。栽培開始から数年で、落花生は八街の人々にとっても欠くことのできない、大切な特産物となっていったのです。



# 【翻刻】※本文のみ

契約証

引受、右倍賞金ハ勿論、此契約違背上 等致シ返金相滞リ候節ハ、保証人二於テ 候、万一本人病気又ハ事故アリテ欠落 以テ貴殿へ売渡シ可申候、若シ他人工売渡シ 之通リ金円借用致シ候ニ就テハ、 間敷為後日、 ヨリ生シタル該費用迄テ即時弁償皆済 タル節ハ、 小粒落花生収穫之上ハ、 小粒落花生弐反五畝歩蒔附二付、 貴殿へ聊後損失御迷惑相掛ヶ申 別紙借用金ヲ倍金ニ致シ返金可仕 証書入置キ申處如件 不残相当相場ヲ 時附タル 別紙

※2反5畝歩…農地の面積。1反=約17アール。

1畝1反の10分の1。



## (意訳)

## 契約証

い 地落花生の2反5畝歩での栽培について、別 小 地落花生の2反5畝歩での栽培については、栽培 した 小 粒落花生を収穫できた場合、すべてを相 と の 相場の 価格で 貴殿に 売り渡します。 もし、 他人へ 売り渡したときには、 借用したお金を倍 にして 返金します。 万が一、 私自身が病気や事 にして 返金します。 万が一、 私自身が病気や事 は ささめてすぐに 弁償し、 貴殿に は 少しの 損失 も き めてすぐに 弁償し、 貴殿に は 少しの 損失 も し 前記の 通りに 契約 は た と き に し が 常 が 代 わりに 返金 を 引き受け、 賠 で 迷惑もおかけしません。 後日の ため 証書を 残し前記の 通りに 契約 いたします。

## 千葉県落花生同業組合の設立

牧野萬右衛門や、金谷総蔵らの尽力により、県内の落 花生の栽培は拡大し、生産量も大幅に増えていきました。 しかし、県の特産物として着実に成長する一方で、

- 不良品が出回る。
- 販売競争によって不当な安売りが行われる。
- 重量が統一されていない。

などの様々な問題が発生するようになりました。

それらの問題解決のために、明治39(1906)年、生産者・仲買業者・販売業者を組合員とする「千葉県落花生同業組合」が設立されました。

県の特産物としての、落花生の品質と信用の保持を主な目的とするこの組合では、生産された落花生への組合員による徹底した検査が行われ、同時に販路の拡大も推し進められました。

このような活動の結果、一時は減少した県内の作付面積も、明治44(1911)年には3,000%を超すまでに拡大しました。

この同業組合は、旭町に第1支部、成東町に第2支部、 八街町に第3支部を置き、第3支部長は当時の八街町長 でもあった下村充が務めました。

**(1)** 

幹事二名選挙ノ事

年於八时用会先後こ时用会持了二名選挙ノー

干菜縣落花生同常组合 第三支部長下村

這巴世春之

〔落花生同業組合の許可並二幹事選挙会通知〕(明治39年)

园田久松 和屋路一的

楊に住たれ 事情量就

事婦包珍れ

帯御出席相成度、別紙定款相添へ此段及御小組合幹事選挙会ヲ開会候ニ付、印鑑携ニ依リ、本月十五日八街村飯田屋ニ於テ左記之通リ務大臣ヨリ認可相成候ニ付、組合定款第廿五條千葉県落花生同業組合、本年九月十二日農商 通知候也

带你出席相成度别新定款相添心的及的小组合幹事選举會可開會候"付印鑑指了小组合幹事選举會可開會候"付印鑑指了"依了本月十五日初村飯用花二於平在記道了教大臣可認可相成候"付组合定款第七五條本至東縣落花生同業组合本至九月七百農商

第三支部長 下村充

午前八時開会午後三時閉会 小坂部紋五郎粕谷鶴之助 岡田久松 殿

文違区生産者

京増包次郎 梅沢徳太郎

期日が差し迫っているので、

大至急通知文を回覧してください。

期日切迫二付大至急順次御回送可被下候

下村

みつる

期日切迫的大至急侵次即国送与下品人

开葉県落花生同業組合明治三十九年十月十一日

文違区生産者

京増包次郎 梅沢徳太郎 京増覚次郎 小坂部紋五郎 粕谷鶴之助 岡田久松

殿

午前八時開会、午前 午後三時閉会

第三支部長

下村充

**(II)** 

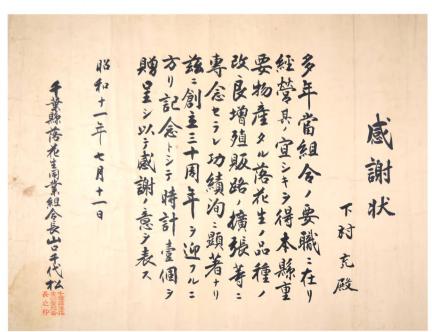
明治三十九年十月十一日で出席下さい。別紙に定款を添付し、通知します。で出席下さい。別紙に定款を添付し、通知しますので、印鑑を持参のうえ、いて、左記のとおり小組合の幹事選挙会を開会しますので、印鑑を持参のうえ、けましたので、組合定款第二十五条に基づき、今月十五日八街村の飯田屋にお十葉県落花生同業組合の設立が今年9月12日に農商務省大臣から認可を受【意訳】 干葉県落花生同業組合

贈呈ら茲、之り表彰ス 爲メ霊力セラレ其ノ効精治 顧著ナラトスグラ火鉢を個 終始一貫陰"陽"本組合 干葉縣落花生同業組合 紀三年十二月三十日 表彰狀 充 殿

千葉県落花生同業組合第3支部長を勤めた

下村充は第17代八街町長でもあった。

千葉県落花生同業組合からの表彰状(昭和3年)



千葉県落花生同業組合創立30周年記念で の感謝状(昭和11年)

## 落花生生産の中心地へ

明治末頃まで、千葉県内の落花生の生産は、山武町や旭町が中心でしたが、当時生産していた品種が干ばつによる被害を受けやすい品種であったため、生産量が安定しないことが増え、落花生からサツマイモへと徐々に栽培を転換していきました。

その頃、八街では落花生の生産地としての画期を迎えていました。

明治初期から始まった開墾が進み、新たな畑作地(耕作地面積)は増加の一途をたどっていました。また、干ばつなどの悪条件に強く、安定した収穫が得られる品種(中国系といわれている)の落花生が栽培されていたこともあり、大正期以降、八街の落花生栽培は盛んになっていきました。大正5(1916)年の八街の総畑作面積は、約2,400%あり、そのうちの約40%にあたる1,000%で、落花生が栽培されていました。

明治30(1897)年、総武鉄道が成東まで延伸開業し、 八街駅が開業したことで、物資の集散地、流通の拠点と しての環境も整っていきました。駅周辺には落花生関連 の事業所も増え、大正から昭和にかけて、落花生生産の 中心地「落花生のまち八街」へと大きく発展していくこ とになります。



【「八街町島職」図】作者の松井天山は、昭和初期に千葉県内の鳥瞰図をいくつも制作しました。この鳥瞰図には、昭和3(1928)年11月写生と記されていて、昭和の初め頃の八街駅や八街十字路周辺の様子が描かれています。道幅などの縮尺は正確ではありませんが、当時の八街を知ることができる貴重な史料です。



【八街町鳥瞰図の裏面】上の鳥瞰図の裏面には、八街駅周辺の商店などの紹介が印刷されています。この中には、落花生に関係する仕事をしていた商店などが16軒あり、当時から八街駅と周辺は落花生の集散地だったことがわかります。(※黒い線は、折り目の汚れが写り込んだものです)

## 戦時統制下の作付制限

昭和12(1937)年に勃発した日中戦争が長期化の様相を見せるなか、昭和13(1938)年「国家総動資法」が施行されます。これにより、戦時中に必要と認められる国内のあらゆる事柄について、政府が統制を行えるようになりました。昭和16(1941)年には「臨時農地等管理令」に基づく「農地作付制限規則」が公布されます。これは、不急不要な農作物(茶・たばこ・果樹・花など)の作付けを制限・禁止し、米・麦・大豆・サツマイモなど、主食の農作物への転作を命じたものでした。同年12月に太平洋戦争が勃発すると、非常事態に備えるための食料確保は急迫した課題となり、昭和18(1943)年告示の「第2次食料増産対策要綱」によって、一段と厳しい管理・統制が行われることになりました。

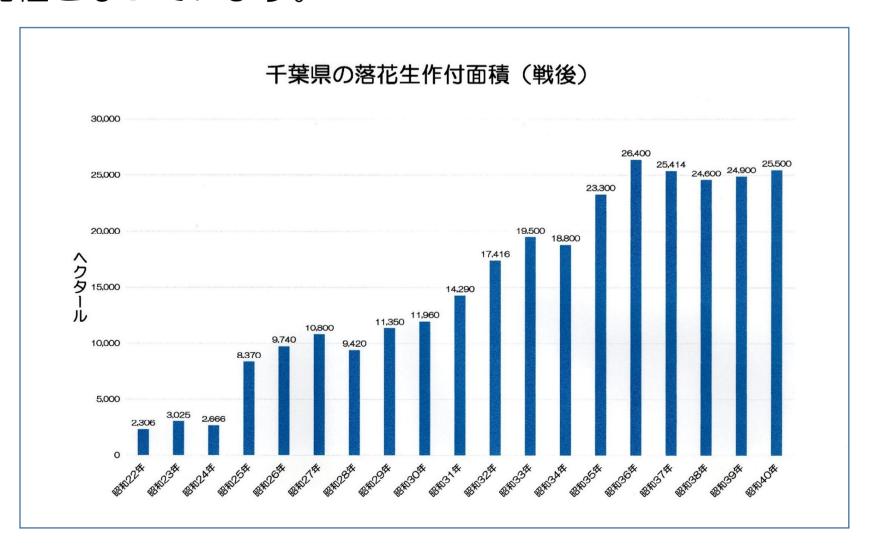
千葉県においても、「特殊農産物配給統制規則」に基づいた作付制限が実施されました。嗜好品的な要素が強い落花生は特殊農産物に指定され、軍需用の配給品のみ、生産が許可されます。戦争による統制と食料不足により、県内の落花生栽培は一部を残し、サツマイモやとうもろこしなどへ転作されていき、縮小を余儀なくされました。

昭和15(1940)年に、5,000 公余りあった作付面積は、終戦後の昭和22年でも約2,300 公に縮小しており、千葉県の落花生栽培の復活は、昭和26年の雑穀類の作付統制解除を待つことになります。

# 「千葉半立」の誕生

雑穀類の作付統制が、翌年に解除されることが決まった昭和25(1950)年、県内の落花生作付面積は、戦後の統制時の約3倍に拡大し、それまでの抑圧をはねのけるかのように、大きく復活します。その後も毎年、作付面積は順調に増え続け、昭和36(1961)年には26,400 %にまで増加しました。

その発展の後押しとなった要因のひとつに、昭和28 (1953)年、県の奨励品種となった、「千葉半立」があります。 千葉半立は、昭和21(1946)年に千葉県農業試験場が、八街町や誉田村(現:千葉市緑区)で栽培されていた半立種を蒐集し、育成した品種です。栽培が比較的容易で、安定して高い収量が得られ、食味も良いことから、全県下で広く栽培され、落花生栽培の急増期を支える品種となりました。そして、令和の現在でも、落花生産地・千葉県を代表する品種となっています。



## 「落花生育種研究室」の独立

戦後、千葉県の落花生栽培がめざましく進展していくなか、昭和29年まで三重県で行われていた、「農林省落花生育種指定試験事業」が、昭和30(1955)年、千葉県農業試験場に移管されることになりました。

その当時、成田市にあった経営伝習農場(県農林水産部所属)の中などに、「千葉県落花生育種試験地」が設置されましたが、農場の一部で落花生の育種試験を行うだけの、限られた小規模なものでした。

昭和27(1952)年から生産者などにより組織されていた落花生対策協議会(会長:堀越 英次 県議会議員、副会長:池田瀧治 八街町長(『蟾蜍』))は、さらなる県内の落花生生産の進展のためには、より良い品種の開発と収量の安定化が必要と考え、昭和31(1956)年、独立した落花生専門の研究機関を県内に設ける運動を起こしました。

協議会の働きかけと、町と町民の協力で、八街町(八街へ)に試験圃場を準備し、建物は八街町が建て、寄附することで、「千葉県農業試験場落花生育種研究室」(現:千葉県農



林総合研究センター 落花生研究室)の独立と 移転が決まります。昭和33(1958)年に建物が 竣工し、落花生に特化した研究が、その一大生 産地である八街で行われることになり、現在 も同地で、日々、研究が続けられています。

※経営伝習農場…現在の農業大学校の前身にあたる教育施設 ※圃場…農作物を栽培する場所

化学の研究と含せて輸入による情

IJ

# 食生活合理化に貢献 望まれる 研究機関の充実

に対する一般の関心を高める必要があるようだ、こういう意味から本原器花生の特理地、器花生の街といわれる田藩部八街町では毎 れだけの生産部を持ちながけも、一般の落花生に対する認識は低いようで、今後さらに本県産業の発展という点からも、落花生生産

究が続けられており、とくにほ場

の硬ぐましい努力によって試験研

続り展げられる、そとでこの機会に一般の落花生についての諸知識を高める意味で、本原落花生生産の現状から落花生の栄養価、こ 年盛大に落花生祭りを行い、県内はもとより県外にまで呼びかけているが、ことしも「十三、二十四の二日間、同地で多彩な行事が れからの見通しなどを入れて霧花特紙をしてみた

試験地が、昭和三十年に本県の一本県には独立したものはなく、成 地の本県移転の落下生生生の生育試験についてはいままで けだった、そとで全国的な主 果営公律の原権展場に一部は場を 設けて、試験研究を行っていただ 研究の成果が期待されている 連として、その生産額は四十億円 が実現したわけで、今後との試験|低率化を図らなければならない、 落花生の本際農業・落花生は るととろが大きい、しかしまだ落 含み、栄養側は国民栄養上資献す

保御管理上の問題から、食品化学
発機関の重要性に国民の
に国民の 平行して含化学の試験研究の機 が必要であるが、脊髄試験機関と に生理加工の研究によるコストの

を上向る現況で、対照態業として

生産についての騒芸発展は、本県

業の漁展に影響するところが大

をかけられているが、農業経済の のうえからも落花生は大きな期待

安定のうえからも九州地方では災

言いとされている。

**落花生の栄養価** 落花生の栄

的にとの問題と取り組んでいる県

質回避作物として注目され、積極

る、そしてとこに付配しなけれ になるための努力が続けられてい ら全国一から、本質的にも全国 多力体制をとったこと、さらにも

付面積や、生産高などの外見上か

以上本県の著花生はいままでの作

進められ、その結果に大きな期待

経済価生産能率などの試験研究が

なお八街町の試験地では連日職員 の問題の解決に当る方針である、 次の被害が当面の重要採題とされ 試験地の移転はさらに関心を高め **| 弱強を図っているが、本県への** だもそれぞれの方法によって生 いる、ただ連作によるネマトー 本格的な現地翻査によって、 いるが、とれについては県が近

産地の現状本県の落花生作

水分 垂白質 脂 肪 含水炭素 灰 分

カロリーュム

るとを引きのである、しかし 屈極めて当局自体も認識不足であ

「落花生生産の問題点」

8 0 5 A 5 5 8 B

献するところが大きく、国の食品

◇落花生の栄養価◇

人などで補っている現状だが、落

あげられなければならない問題で 的な施策であり、今後もっと取り

『千葉日報』昭和33年8月22日

よび一般油脂度能の外国からの輸

わが国保健食としての蛋白資源お

改良、試験研究機関の整備は国家

もかなりあるとの中にあって品種

りカロリーも豊富に含まれ、



昭和35(1960)年頃に撮影された、 研究室内のようす。

住民の日だっ れでも また日 るよう とこの 盛大には じめっこ かもた 年日本 れる。 にがとと場のれ声な計にいの落まと なりました。 なりました。 なり、盛沢山 ないつしよに挙行 ないつしよに挙行 ないでしまに挙行 ます。 発生のい の町や す山行作と

【『広報やちまた』昭和33年8月号】落花生まつりは、昭和32年に第1回が開催され、ミス落花生コンテスト や大名行列など、多くの催しが行われました。第2回のこの年には、落花生試験場(研究室)の竣工式も同時開催 され、広報の記事からも、祭の開催に向けた盛り上がりが感じられます。

## 「落花生のまち」として全国へ

移転後の落花生研究室からは、「ナカテユタカ」(1979年)、「おおまさり」(2007年)など、千葉県の奨励品種にも選ばれる、数々の落花生の品種が育成されてきました。それは、昭和30年から半世紀以上にわたり、落花生の育種に取り組んでいる落花生研究室の、根気強い研究の成果です。品種の開発・改良は、一朝一夕に完成するものではなく、長い年月と、たゆまぬ熱意が必要です。

その熱意の支えとなったのが、研究の地盤となる、八街の生産者たちの、試験栽培などへの惜しみない協力と、より良い落花生を全国の消費者に届けたいと願う、「落花生のまち」の生産者としての熱意と誇持です。

八街の落花生栽培は、大正期に躍進し、その後も成長を続けました。やがて、品質への高い評価と信用を得るようになり、「落花生のまち」としての自覚と誇り、より良い落花生を生産したいという熱意が生まれました。そして、それは、連綿と今日まで受け継がれ、「落花生のまち・八街」の名を全国に広める原動力になりました。

現在、国内の落花生の8割以上を生産する千葉県で、八街市は、毎年のように生産量第1位を獲得しています。

平成19年には、八街落花生商工協同組合が申請していた「八街産落花生」が地域ブランドとして商標登録されました。

生産、加工、販売、そして研究と、落花生に関するすべてにおいて八街市は、名実ともに、全国に誇る「落花生のまち」となっています。









莢実の選別作業(1960年頃)



岸田首相に落花生を贈呈する 北村市長(2023 年)

#### 落花生の草型(模式図)



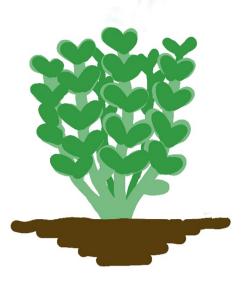
伏性種…低く横に広がる品種 (例)千葉 43 号

※千葉半立が普及するまでは、千葉県の代表的品種だったが、現在はほとんど栽培されていない。



半立種…伏性種と立性種の中間 (例)千葉半立・おおまさり

※千葉半立の名前はこの草型から。

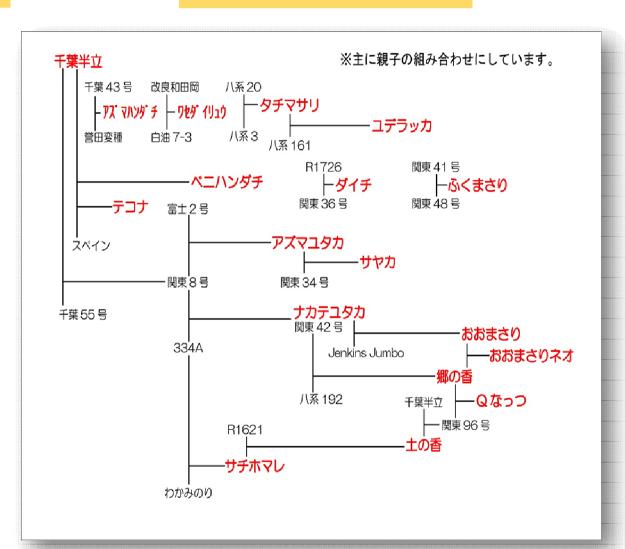


立性種…立つように育つ品種(例)ナカテユタカ・Qなっつ・郷の香

#### 落花生研究室で育成された品種

#### 昭和 27年 千葉半立 ↓ 以下は研究室が八街に移転してから誕生した品種 昭和 36年 アズマハンダチ 45年 テコナ 46年 ワセダイリュウ ベニハンダチ // 49年 サチホマレ タチマサリ // 51年 アズマユタカ 54年 ナカテユタカ ダイチ 元年 平成 3年 サヤカ ユデラッカ // 4年 土の香 7年 郷の香 12年 ふくまさり 19年 おおまさり 25年 Q なっつ 27年 おおまさりネオ

#### 落花生の品種の系統図



#### 【落花生研究室・研究の基本方向】

食味が良く、多収で栽培しやすいことに加え、高機能性や種皮色など、新たな形質を備えた品種など、付加価値が高く魅力ある品種の育成を目指しています。また、落花生は、輪作作物や環境に優しい作物として見直されていることから、これらの能力を向上させ、より多くの場面で落花生が利用されるよう、品種改良や栽培試験に取り組んでいます。また、近年の気象変動に対応した技術対策にも取り組みます。